

脱會する者もあり等々之が窮狀打開に迫られ、昨年十月頃より會勢挽回の一策として、運賃値上、口銭を歩合制度に改正、會費一屯五圓宛徴收、積立金の造成等をスロガンとして組合員に宣傳すると共に種々對策中絶であつたが、週々インフレ景氣の出現と共に石炭界にも活況を呈し、十一月二日間雇五親會と荷主聯合會とは帆船の石炭運賃屯當り大競の値上進を協定發表したけれども、一方汽船の運賃屯當り約五和錢の値上りに比し甚だ少額なりとして互親會の態度に反感を抱き、この際海運界の好轉を機會に運賃の値上並に會費徴收問題等に依つて組合の勢力挽回を圖るべく年末來青々論議中であつたところ、愈々本年一月五日若松市に臨時大會を開催して値上運動を起すこととなつたのである。

### 五、値上運動の經過

#### 1、臨時大會の開催

一月五日午後三時より開催約百名の参加者を以つて左の事項を決議したのである。

#### 一、役員の選舉

濱田金太郎氏の外理事四名を新任し顧問二名を擧ぐ。

#### 二、名稱の變更

日本帆船船名會を日本帆船組合と改稱す。

#### 三、運賃の値上

若松、大阪間の帆船運賃（石炭）は目下屯當り一圓六拾五錢にして安賃に過ぐるが故に之を二圓（三十五錢）値上）とし其他の仕向地に對しても値上することとし左の決議をなした。